

第330回

日文研フォーラム

講師◎孫 江 南京大学(中国)教授／日文研外国人研究員

越境する民衆宗教

―大正・昭和前期における大本教と道院・紅卍字会の関係を中心に―

コメンテーター◎劉 建輝

日文研副所長

司会◎呉座 勇一 日文研助教

2019年7月5日(金) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室

入場無料・先着一八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies

The 330th Nichibunken Forum

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研フォーラム

越境する民衆宗教

—大正・昭和前期における大本教と道院・紅卍字会の関係を中心に—

Popular Religion Across Borders: The Relationship between Omoto and the Red Swastika Society in the Taisho and Early Showa eras

激動する大正時代、関東大震災をきっかけに、日本の大本教と中国の道院・紅卍字会が海を越えて頻繁に交流するようになりました。大本教は帝国の周縁に自らの新天地を求め、道院・紅卍字会は海外に進出し普遍的救済の理念を実践しようとした。日中近代国家の狭間に生きる民衆宗教はどのようなドラマを展開したのでしょうか。

本発表では、これまでほとんど知られていない一次資料に基づき、大本教の中国での活動を中心に、その歴史の謎に迫ります。

講師 孫 江 南京大学(中国) 教授/日文研 外国人研究員



1999年東京大学大学院博士課程修了(学術博士)。静岡文化芸術大学教授を経て現職。2019年1月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。専門分野は、比較思想・日中関係・宗教社会学。

主な著作に、『重審中国的「近代」』(中国的「近代」の再検討、社会科学文献出版社、2018、英語版: *Revisiting China's Modernity: Ethnicity, Religion, and Nation*, Peter Lang, 2019. forthcoming)、『近代中国の宗教・結社と権力』(汲古書院、2012、韓国語版: *근대 중국의 종교·결사와 권력*, 学古房、2019)、『東アジアにおける近代知の空間の形成』(共編著、東方書店、2014)、『戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教』(共著、有志舎、2014)などがある。

コメンテーター 劉 建輝 日文研 副所長



中国・遼寧大学外国語学部日本語科卒業。神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了。中国・南開大学外国語语言文学部日本語学助教授、北京大学比較文学・比較文化研究所助教授を経て、1999年4月より国際日本文化研究センター助教授就任。2013年4月同教授、2016年10月より現職。専門分野は、日中比較文学、比較文化。

主な著作に、『日中二百年——支え合う近代』(武田ランダムハウスジャパン、2012)、『増補・魔都上海——日本知識人の「近代」体験』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、2010)などがある。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2
TEL: 075-335-2078
<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>



京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車